

今月の御教え

天地金乃神のご神体は天地である。宮社に鎮まり納まっておられるのではない。真一心の心に神がおられて、おかげになる。

……「天地は語る」第九条……

解説

この御教えは、先月の御教えと同様に、金光大神様の出遭われた「天地金乃神様」とは、今までの宮、社に鎮まる神様ではなく、この広大無辺の大天地に在って絶えず我々人間を見守って下さっている人間の本体の親神様であることを明示された御教えあり、であります。

一般に、神社に神を現わす『ご神体』というものがあり、それは鏡、剣、珠などであり、神殿の御扉の中に安置されているものであります。故に教祖様の広前に参拝された方々から『この神様のご神体は何でありますか』と聞かれることも少なからずあったことと思われます。その問いに対して教祖様は「この天地金乃神様のご神体は天地であります。故に真一心に祈れば、何時如何なる時でも如何なる所からでも神様に届いて御蔭を頂けます」と教えられたのであります。

この御教えに込められた教祖様の思いを頂き、共々に信心の稽古に励み「生神金光大神大祭」を有り難くお迎え致しましょう。